

フィンドレー大学

ベケット奨学金留学報告書

5月・日本帰国後版

獣医学類5年

北名純也

## フィンドレー大学ベケット奨学金留学報告書：5月・日本帰国後

獣医学類5年 北名純也

酪農学園大学獣医学類5年の北名純也です。お久しぶりです。9ヶ月に及ぶ私のアメリカオハイオ州フィンドレー大学での留学は、この5月を持ちまして無事に終わりを迎えることができました。今回の報告書では、先月の報告書でお伝えした、帰国前のケンタッキー州での実習についてと、フィンドレー大学から酪農学園大学に3週間滞在した留学生との交流について、そして、この留学の総括をまとめさせていただきます。



大学の門で記念写真

5月は、2学期を過ごした大学のキャンパスと友人たちに別れを告げ、テスト期間が終了した直後の5月4日に行われた、ケンタッキーオークスの観戦に行きました。ケンタッキーオークスはルイビルのチャーチルダウنز競馬場で行われる、アメリカで最も位の高いレースのひとつです。次の日に行われるケンタッキーダービーとともに、この週末は競馬場の回りもお祭り騒ぎのようになります。幸運にもこのチケットを購入することができたため、フィンドレーでレンタカーを借りて4時間かけて向かいました。競馬場の中に入ると、人々がまるで舞踏会のようにきらびやかな衣装で着飾り、全体がケンタッキーオークスのイメージカラーであるピンク色で覆われていました。日本の競馬場にも何度か足を運んだことがありましたが、このようにパーティーのような光景は見たことはありませんでした。馬券は負けてしまいましたがとても感動しました。



ケンタッキーオークスの一日

ケンタッキーオークスの後、こちらにも幸運にも機会をいただくことができた、ケンタッキー州のレキシントンに位置する **Winchester Farm** での実習が始まりました。こちらの牧場での実習は、フィンドレー大学で行われた、ケンタッキーでのインターンシップの説明会からきっかけを頂き実現したものです。牧場長の吉田直哉先生は、酪農学園大学獣医学科をご卒業された、本学 OB の方でした。先生のご好意で 1 週間の実習をさせていただき、5 日間は牧場業務を、2 日間は **Hagyard Equine Medical Institute** の獣医師でおられる、**Dr. Fishback** と **Dr. Lu** の診療業務にご一緒させていただきました。

牧場業務の実習では朝の 7 時から夕方 4 時まで、従業員の方と一緒に、馬房掃除や餌やり、馬の放牧などをやらせていただきました。また、直接吉田先生に連れて行っていただき、何度か種付けも見学することができました。牧場業務のマネージャーである **Angelica** や **Ray** にとっても良くしていただき、他にもメキシコを中心とした中米からの従業員の方々とも仲良くなることができました。彼らの多くは英語をほとんど話せず、スペイン語しか知らない人たちで、私もスペイン語をまったく話せないため、初めのほうはコミュニケーションに一抹の不安がありましたが、彼らはとても優しくフレンドリーで、言語が通じなくても身振り手振りで様々なことを教えてくれました。**Angelica** はフランス出身で、英語、スペイン語を完璧に使いこなすスーパーウーマンでした。ある夜には、人生で初めてお産を見学させてもらうこともできました。授業では習っていたこともいざ目の前にその状況が起こるとなったときに、何も思いつくことができず、自分の未熟さを改めて実感する機会でもありました。



従業員の皆さんと



早朝の出産

2 日間の診療業務の見学では主に繁殖業務を行っている **Dr. Fishback** と、難しい問題を抱えている馬を担当している **Dr. Lu** に同行させていただきました。**Dr. Fishback** は以前に診療長も務められていた大ベテランで、朝の 7 時から夕方 5 時くらいまでの往診に連れて行ってくださいました。**Dr. Lu** はその道のスペシャリストで診療頭数が多いため、朝の 4 時半から夜の 6 時まで休みなく診療されていました。**Dr. Lu** に往診を見せていただい

たその日、Winchester Farm の一頭の繁殖牝馬が夜中に疝痛（腹痛）を起こし、私は Angelica とともにその馬に付き添って病院についていったため、朝の 2 時 50 分起床の長い一日となりましたが、繁殖シーズンの馬産地を自分の肌で感じることができるすばらしい体験をさせていただきました。



Dr. Lu との往診直後

Angelica、Dr. Fishback と

このように 1 週間という短い期間でしたが、ケンタッキーでの実習は私の人生においてかけがえのない経験となりました。快く私を受け入れてくださった吉田先生は、本学 OB としてこの報告書にてご紹介させていただくことを快諾してくださったので、アメリカでの馬の実習に興味のある方はこちらのメールアドレスから直接連絡してみてください。

(吉田 直哉先生：[nyoshida@winchesterfarm.com](mailto:nyoshida@winchesterfarm.com))



吉田直哉先生と

私は5月14日に日本に帰国しましたが、その3日後の5月17日から3週間、フィンドレー大学から酪農学園大学に短期の留学生がやってきました。彼女たちは獣医大学に入学する前の段階の学部であるPre-vetの学生たちで、本学との交換留学プログラムを通じて日本の獣医療を学んだり、日本の文化に触れたりしました。私はイルカの調査や動物園の見学など、多くの実習や学外活動に同行し、通訳のような形で彼女たちをサポートしました。また、週末にはバディーステイと題して、学生の家泊まるという毎年恒例の企画で、昨年度の短期留学生のユイと今年度の短期留学生のマイとともに、札幌や登別、洞爺湖、富良野・美瑛など北海道観光にも一緒に行きました。今年度のアメリカからの留学生、Lauren, Stephanie, Hannah, Tazia, Deliannの5人とは、私がフィンドレーにいるときに知り合い、日本語を教えたりした間柄でもあります。5人とも積極的に日本に触れ、食べ物や観光などもとても楽しんでくれたようなので、私にとっても中身の濃い充実した3週間となりました。今後も彼女たちを含めたフィンドレーの学生と長く密に付き合っていきたいと思います。



登別観光



洞爺湖



積丹でイルカの調査



500頭を超えるイルカの群れに遭遇



富良野・美瑛観光

日本に帰国してからまもなく1ヶ月が経ち、今までの大学生活や日常に完璧に戻ってきました。いざアメリカ渡航前の生活に戻ると、アメリカでの9ヶ月はやはり自分にとって非日常的で、どれほど素晴らしいものだったかを実感することができます。フィンドレーに留学し個人的に一番よかったと思うことは、自分から動くことの重要性に気づき、その方法を身につけたことです。日本では何かと理由をつけて後回しにしたり、受身になったりすることが多い私ですが、アメリカに滞在している間は、自分から行動を起こさないと何もチャンスはありませんでした。常に全力でできることから取り組む。この当たり前で、意外と難しいことをこれからも継続していきたいと思います。

アメリカで経験した英語、生活、旅行、獣医療や、アメリカで出会ったたくさんの人々との繋がりは、私の人生におけるかけがえのない財産です。この経験を自分の人生のどこかに活かしていけるように、大切に私の中にしまっておきたいと思います。9ヶ月間、私のつたない報告書を読んでいただいた皆様、本当にありがとうございました。この報告書が、来年度以降の留学生たち、あるいはどなたかの人生に少しでも役立つことをお祈り申し上げ、最後の挨拶とさせていただきます。短い間でしたが本当にありがとうございました。

それではまた。



Farewell Party



クラスのみんなでさよならバーベキュー



チニーと帰国前の顔パック



空港で出迎えてくれた友人たち  
(出てすぐにお寿司を口に詰め込まれました...)



一番最初の日本人集合写真  
(Before)



一番最後の日本人集合写真  
(After)



なにか私に質問等がある方は、こちらまでご自由に連絡ください。

[s21361043@stu.rakuno.ac.jp](mailto:s21361043@stu.rakuno.ac.jp)